

令和7年度 前期 自己評価書

篠山小中学校組合立篠山小中学校

【評価基準】 A：目標を達成 B：8割以上達成 C：6割以上達成 D：6割未満

1 特色ある学校づくり

評価項目	評価指標及び目標値	評価	学校による考察(◇) 改善方策(◆)		評価資料	個別評価	肯定率	アンケート結果(%)				
							4+3	4	3	2	1	
小中一貫教育を目指した教育の推進	組合立学校、小中合同校舎等の特色を生かし、「9年間で育つ篠南の子」を意識した教育活動を推進している。 目標値:教職員、保護者、地域の約90%が肯定	A	◇小中合同の校舎の良さを生かし、全校給食の実施や合同俳句集会、ふるさと学習など、多様な活動内容や形態を考慮しながら、小中間の交流の場を設定している。また、稲作を中心とした勤労生産的活動等も、児童生徒だけでなく教職員間で細かく共通理解を図りながら、合同で計画・実施していることが高評価につながっている。 ◆現在の体制を継続しつつ、児童生徒の発達段階に合わせながら、9年間を見通した教育の推進に努めていく。今後も、運動会や文化祭など、小中合同の学校行事や活動を、ホームページや各種たよりで積極的に広報することで、地域や保護者に周知させていく。	教職員1	A	100%	57%	43%	0%	0%		
				保護者1	A	100%	22%	78%	0%	0%		
		地域1	A	100%	67%	33%	0%	0%				
						教職員1		0				
						保護者1		0				
				地域1		0						
ふるさと教育	地域の人材や教育資源を活用するなど、地域の教育力を取り入れた取組を計画・推進している。 目標値:教職員、児童生徒、保護者、地域の約90%が肯定	A	◇児童生徒1名が評価が低かったが、全体的には高評価を得ている。学校では、今年度も総合的な学習の時間を中心に、「田植え」やふるさと学習、地域ボランティアなど、地域の人材を活用した活動や地域と共に取り組む活動を推進している。また、活動の際には地域コーディネーターを積極的に活用し、地域人材と交流する機会を増やしたり、地域の教育力を取り入れたりすることで評価が高まったと考えている。 ◆これからも運動会や文化祭など、学校行事には積極的に地域の人材を活用し、小中の連携を図りながらより効果的な学習活動になるように進めていく。また、地域ボランティアへの活動にも幅を広げ、県道花壇整備の活動にも積極的に呼び掛けることで、学校と地域の連携を密にしている。	教職員2	A	100%	71%	29%	0%	0%		
				児童生徒8	B	89%	67%	22%	11%	0%		
		保護者2	A	100%	25%	75%	0%	0%				
		地域2	A	100%	78%	22%	0%	0%				
						教職員2		0				
						児童生徒7		0				
						保護者2		0				
						地域2		0				
家庭・地域との連携	各種たよりやホームページ等で学校の取組や児童生徒の様子を適時に発信している。 目標値:教職員、保護者、地域住民の約90%が肯定	A	◇保護者・地域のいずれもが肯定的にとらえている。ホームページをはじめとして、学校だよりや学級だより、保健だより等、様々な手段で学校の取組を周知しているためと考えられる。教職員については、学級だよりの発行が不十分だったと反省している者がいるため、やや低い評価になっている。 ◆学校だよりを回覧板で見いただく方法をとっているが、現在、トラブルや相談などの連絡はない。従って、学校の取組の周知については、現行を継続しつつ、より確実に伝わるような手段をさらに講じるように工夫する。ただし、学校からの一方通行の伝達だけでなく、地域の「願いや思い」を把握する機会を増やすことも必要であるとする。	教職員3	B	80%	60%	20%	20%	0%		
				保護者14	A	100%	25%	75%	0%	0%		
				地域7	A	100%	67%	33%	0%	0%		
						教職員3		0				
						保護者15		0				
						地域7		0				
学校運営協議会委員の意見	○地域の方々との交流(ボランティアの参加)等よくできていると思います。 ○毎日ホームページの更新がされ、情報発信ができていますと思います。 ○学校のありよう自体が他校にはない特色を持っていて、それらの特色を生かした学校運営がなされていると思います。 ○地域との連携を進めるうえで、コーディネーターの果たす役割が大きかったのではないのでしょうか。 ○全体評価がすべてAだったことは、素晴らしいことだと思います。 ○ふるさと学習においても、地域の人たちがいろいろと協力しているので本当に良い結果で良かったです。	学校の対応		○毎月、篠ボラを実施していただき本当に心から感謝しています。地域の方々に支えられていることを実感します。 ○ホームページは今後も毎日更新していきます。 ○地域コーディネーターが果たす役割は本当に大きいです。学校と地域の橋渡し役に感謝しています。 ○休校まで約半年になりましたが、篠山の特色を生かした学校運営を行っていきたいと思います。								
	後期											

2 確かな学力の定着と向上

基礎学力の 定着	小➡児童は、「読み・書き・計算」の基礎学力が身に付いている。 中➡生徒は、基礎的・基本的な知識・技能が身に付いている。	A	◇教師が少人数の利点を生かし、個に応じた指導や授業の工夫を行うことで、児童も生徒も授業に意欲的に取り組むことができ、基礎学力が身に付いたと評価したと思われる。保護者は、これらの実践を授業参観やテストの成績等から鑑みて、評価した。 ◆教科によっては、苦手意識を持つ児童生徒がいたり、基礎的な内容の理解や定着が困難な児童生徒もいたりする。ICT等を活用して、個に応じた対応を図る。	教職員4 A 100% 20% 80% 0% 0%						
	児童生徒2,14 A 100% 84% 16% 0% 0%									
	保護者12 A 100% 25% 75% 0% 0%									
授業改善 ICTの活用	児童生徒が自分の考えを分かりやすく表現したり、物事を論理的に考えたりする授業を実践している。また、ICT機器を効果的に活用している。	A	◇各教科でデジタル教科書を中心に活用していることから、高い評価を得られている。小学校は、毎週金曜日の朝8:00～8:10までeスタの記事を読んだり、クミハンを使って新聞記事を書いたり、キャンバを使って様々な資料作成をしたりする中で、文章読解力や文章作成に慣れ親しむことを目指している。中学校は、毎週水曜日にEILSで「eスタ」の問題を解いたり、毎週金曜日にドリルパークで5教科の学習をしている。これらのことも、学力向上に役立っていると思われる。 ◆ICT機器の効果的な活用方法について、教員間で情報交換してレベルアップしたい。今後町ICT支援員による研修会を定期的に実施していく予定である。	教職員5 A 100% 20% 80% 0% 0%						
	児童生徒4,5,9 A 97% 25% 72% 3% 0%									
	教職員5 0 児童生徒4,5,9 0									
家庭学習の 定着	児童生徒は、家庭学習の習慣が身に付いている。(小学校中学年は40分、高学年は60分、中学生は90分以上)	C	◇保護者の認識と教職員・児童生徒のずれが大きい。学習時間が足りないという判断なのか、言われてから取り組むという状況に対して身に付いてないと判断されたのかが定かではない。小学校は宿題にきちんと取り組めば、家庭学習の目標時間が達成できるように出しているが、丁寧さや正確さは欠けているため目標時間よりも早く終わっている可能性はある。中学校は、多くの生徒は課題をきちんと提出できている。一学期末テストの勉強にも今まで以上に取り組むことができ、実際に成績を伸ばすことができた生徒もいた。そうした生徒のよい変化に喜びを感じている保護者もある。テニスの練習で疲れている中、睡眠時間を削って宿題に取り組み、きちんと提出する生徒もいる。 ◆自らが家庭学習に取り組む態度で保護者に判断していただくのか、目標時間を達成していることで判断していただくのかを明記して、課題を焦点化していく。小学校では、家庭学習の目標時間に足りない場合の自主学習の仕方について学期初めに時間を取って指導したが、結果は芳しくなかった。目標時間を達成していたからかもしれないが、2学期以降は、自分で自主学習に取り組みやすい曜日を決めさせて習慣化を図りたい。	教職員6 A 100% 20% 80% 0% 0%						
	児童生徒3 A 100% 67% 33% 0% 0%									
	保護者4 D 38% 0% 38% 63% 0%									
	目標値:教職員、児童生徒、保護者の約85%が肯定			教職員6 0 児童生徒3 0 保護者4 0						
学校運営協議 会委員の意見	○小中学生ともに、基礎学力が身に付いているのは少人数で個別指導ができることの成果だと思います。更に個別指導を徹底して、能力のある子供には発展的な指導を取り入れて、才能を伸ばしてほしいと思います。 ○デジタル教科書については、学力向上に効果があるかどうか分からない面があるので慎重に進めてほしい。 ○少人数の学級ですが、一人一人様々な面で頑張っており多くの賞をとっていることは素晴らしいと思います。 ○体育の面では、少人数なので、できることが限られるので先生の苦労があり大変だと思います。	学校の対応		○それぞれの教科で「個に応じた指導」を意識して取り組んでいます。子供はそれぞれ能力が違いますので、御指摘されたようにそれぞれの子供に合った指導をしていきます。 ○アナログとデジタルのベストミックスが大切だと言われています。教師がアナログ、デジタルのそれぞれの良い点を使い分けて指導していきます。 ○子供たちは、勉強も運動もよく頑張っています。ソフトテニスでは県総体団体・個人優勝、四国大会では個人準優勝を果たし、全国大会に出場しました。学習面でも学力を向上させ、希望の進路を実現させたいと思います。						
	後期									

3 豊かな心と健やかな体を育てる教育の推進

道徳教育の 充実	道徳科や特別活動等の授業を通して、自他を思いやる児童生徒が育っている。	A	◇道徳科でも他教科と同様にめあてを意識した授業を実践したり、中学校ではオンラインで学習したりすることで、主体的・対話的な学びが保障されたことが高評価につながっていると思われる。また、小中合同の活動を含め、すべての教育活動を通して指導してきたことで、互いを思いやる心を育むことができているのではないかとと思われる。 ◆保護者の「よくできている」の評価が一番低い一方で、児童生徒の「よくできている」の評価が一番高くなっており矛盾を感じる。児童生徒にとっては、問題意識を持たない言動であっても、保護者が気になっている可能性がある。保護者との連携を深め、タイミングを逃さない指導と児童生徒にしっかりと考えさせる指導の両方を今後も意識して実践していきたい。	教職員7	A	100%	80%	20%	0%	0%
	目標値:教職員、児童生徒、保護者の約85%が肯定			児童生徒7	A	100%	89%	11%	0%	0%
				保護者11	A	100%	13%	88%	0%	0%
				教職員7		0				
挨拶・返事運 動の推進	気持ちのよい挨拶・返事ができる児童生徒が育っている。	A	◇児童生徒や保護者、地域住民は、高評価だったが、教職員の中に「まだ十分ではない」と感じている方が2名いた。全体で肯定が9割以上あったため、A評価とした。 ◆その日の気分によって声の大きさが変わる児童生徒にならないように、根気強く指導を継続していく。また、道徳の時間や、部活動等を通して、感謝の気持ちを言葉で伝えることの大切さや人と人とのつながりの第一歩は挨拶であることなどを指導していき、コミュニケーション能力を高めていきたい。	児童生徒7		0				
	目標値:教職員、児童生徒、保護者、地域住民の約90%が肯定			保護者11		0				
				教職員8	B	80%	80%	0%	20%	0%
				児童生徒10	A	100%	67%	33%	0%	0%
健康な生活 習慣の確立	児童生徒は、早寝・早起き・朝ごはんの習慣が身に付いている。	B	◇児童生徒と教職員は高評価であったが、保護者の中に、早起きの習慣が身に付いていないと感じる方がおられた。生徒児童の結果と保護者との結果とのずれが見られたが、全体の評価としては、B評価とした。 ◆日々の声掛け、家庭との連携を密にし、できない原因や改善方法を個人懇談等で提案している。早寝早起きの習慣は、家庭の協力が必要であるため、「保健だより」を通して、課題や改善の方法を発信し、家庭と連携した取組を行う。	保護者7	A	100%	13%	88%	0%	0%
	目標値:教職員、児童生徒、保護者の約85%が肯定			地域3	A	100%	56%	44%	0%	0%
				教職員8		0				
				児童生徒9		0				
体力づくりの 推進	教科体育の充実や部活動、課外体育、「えひめITスタジアム」への参加により、体力・運動能力が向上している。	A	◇体を動かすことに抵抗を感じている児童生徒は多少いるが、放課後の水泳練習や部活動に意欲的に取り組んでいる。小学校では特に、水泳が好きで授業、放課後練習とも目標を持って頑張る姿が見られた。しかし、種目によっては運動を苦手に思う児童生徒もいるので、楽しい活動を心掛けることも重要である。 ◆体育学習で様々な運動に親しみながら運動能力の向上を図る。また、目的意識を持つことや運動の意義などを工夫して知らせ、放課後の水泳・陸上練習や部活動にも積極的に参加させる。自分の好きなことを伸ばすとともに、自己有用感や自己肯定感を育てたい。	保護者7		0				
	目標値:教職員の約85%が肯定			地域3		0				
				教職員9	A	100%	40%	60%	0%	0%
				児童生徒13	A	89%	44%	44%	11%	0%
学校運営協議 会委員の意見	〇篠山の子供たちはいつ会っても、気持ちの良いあいさつができています。元気をもらっています。ありがとうございます。 〇学校、家庭だけでなく地域との関わりが増える中で、あいさつの大切さや感謝の気持ちが育まれていっていると思います。 〇道徳教育は道徳の時間だけではなく、学校教育全体で行うことを再確認して、子供たちの学校生活の様々な場面で適宜指導していくことを心がけてほしい。 〇テニス部の活躍は本当に素晴らしい。一昔前なら全国大会出場となれば地域をあげて応援したと思うが、少し淋しい。もっと称揚されていいと思う。	学校の対応	〇地域でも子供たちが気持ちの良いあいさつができているということを聞いてうれしく思います。今後も継続できるように支援していきます。 〇皆さんのおかげで、子供たちが育ってきていると思います。今後ともよろしく願いいたします。 〇学校生活において、気になる言動があればその都度注意したり、子供たちに考えさせたりしています。御指摘の通り、学校教育全体で道徳的実践力を身につけさせていきます。 〇一生懸命に練習し、心身ともに鍛えた結果だと思います。温かいお言葉をありがとうございます。	保護者9	C	63%	0%	63%	38%	0%
	後期			教職員9		0				
				児童生徒13		0				
				保護者9		0				

5 安全・安心な教育環境の整備、教職員の資質・能力の向上

安心・安全な教育環境の整備と充実	学校は、災害等に対する安全教育の推進を行い、「自分の命は自分で守り切る」ことのできる児童生徒の育成に努めている。 目標値:教職員、児童生徒、保護者の約90%が肯定	A	◇どの項目においても、100%の肯定率であった。見守り隊や地域の方々からの情報や助言に応じて安全指導を行ったり、避難訓練を定期的に行った結果だと言える。自分の命は自分で守ることができる指導を継続的に行わなければならないと考えている。 ◆今後も防災・減災活動や教育は、地域と共に進めていく。大地震が発生するとライフラインが寸断され、孤立状態になる可能性が高いので、そのような状況になったときでも生き抜くことができる教育と準備をしていく。また、土砂災害想定避難訓練や弾道ミサイルが発射された場合の対応訓練も定期的に行っていく。	教職員14	A	100%	80%	20%	0%	0%
				児童生徒11	A	100%	89%	11%	0%	0%
				地域6	A	100%	56%	44%	0%	0%
				保護者13	A	100%	38%	63%	0%	0%
				教職員14						
教職員としての資質と指導力の向上	学力向上、生徒指導等において研修や自己研鑽に努めている。 目標値:教職員の約90%が肯定	A	◇校内研修は、計画に沿って行っている。ICT機器のスキルアップ研修などの基礎的な研修を繰り返し実施しており、それらの研修が教職員が互いに学び合う良い機会となっている。教材研究などの自己研修を行う時間を適切に確保することが課題である。 ◆互いが実務を通じて指導していく方法や教職員間の対話を通じて自身が気づき、答えを見付けていく方法などを活用し、「報告・連絡・相談」でしやすい体制づくりに努めていく。ICTスキルの高い者から学ぶ姿勢を全教職員が持つようにし、町ICT支援員の積極的な活用をしていく。	児童生徒11						
				地域6						
				保護者13						
				教職員15	A	100%	40%	60%	0%	0%
学校運営協議会委員の意見	○安全教育は手抜きなく、よくなされている。 ○避難訓練、防災訓練、不審者訓練など様々な訓練を度々しているので、本当にすごいと思います。自分たちもできる限り参加して児童生徒と触れ合うようにしたいと思います。 ○児童生徒は、「自分の命は自分で守る」ことが身に付いてきていると思う。 後期	学校の対応	○災害はいつ起こるか分かりません。いつ起きても「自分の命は自分で守る」ことができるように繰り返し訓練していきます。特に中学生には、自分で判断して行動できる力を身に付けさせていきます。 ○様々な場面を想定した訓練をしていき、どんな場面にも対応できる子供たちを育てていきます。							